

## 第5回 和歌山県弥生・古墳時代研究会の報告

開催日時：平成24年10月20日（土）13:30～16:30

開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市岩橋1411番地）

発表：

### ①「近畿地方のカツオ釣り針について」 富加見泰彦（紀伊風土記の丘）

県内出土の弥生～古墳時代の釣り針のうち、和歌山市西庄遺跡・田辺市磯間岩陰遺跡・白浜町日向浦遺跡の鹿角製釣り針がカツオ用であることを述べ、その根拠を示しました。さらに、西庄遺跡をはじめとする県内の沿岸部に位置する遺跡について、出土遺物を紹介して、漁撈や製塩などの活動について解説しました。また、カツオ用釣り針については、5世紀に田辺湾沿岸で成立して、6世紀に志摩半島や伊豆半島、三浦半島へ伝播したこと、その背景には紀伊半島西部の漁民集団の広範な移動性と航海技術に裏打ちされた主導性などがあったことを想定しました。最後に西庄遺跡から出土した鹿角製品（釣り針・疑似餌・刀装具など）や鉄製品（釣り針など）、玉類を観察しながら質疑応答しました。

### ②「和歌山県出土の銅鐸形土製品について」 仲原知之（紀伊風土記の丘）

今回の特別展では銅鐸20点（レプリカを含めると24点）とともに銅鐸形土製品も展示します。和歌山県内では現在のところ、銅鐸形土製品が5点出土しています（海南市岡村遺跡2点、海南市亀川遺跡、かつらぎ町西飯降Ⅱ遺跡、橋本市血縄遺跡。展示は岡村遺跡と血縄遺跡の計3点）。まず全国で出土する銅鐸形土製品の形態や分布、出土状況などを紹介し、その性格や使用方法の諸説を解説しました。次に県内の銅鐸形土製品について、それぞれの特徴を説明しました。岡村遺跡の袈裟襷文や血縄遺跡の内面凸帯などは銅鐸を直接見て知っている人でないと製作できないこと、西飯降Ⅱ遺跡例の内面の穴が棒状にあけられているのは他例がないため、銅鐸をあまり知らない人の手によるものである推察しました。亀川遺跡例は中実で小形であること、文様が半竹管で施されるなどから銅鐸形土製品ではないという説もあるが、唐古・鍵遺跡に竹管文で文様が施された個体があることから、銅鐸をかなりデフォルメしたもの、あるいは他の銅鐸形土製品を模倣したものであると推測しました。最後に、県内では太田・黒田遺跡など銅鐸出土地では銅鐸形土製品が出土していないが、銅鐸と土製品の関係性から、海南市・かつらぎ町・橋本市域の銅鐸未発見地域でも今後集落周辺の山などから銅鐸が出土する可能性があるという私見を述べました。

参加者：（敬称略）

<発表者> 富加見泰彦・仲原知之（紀伊風土記の丘）

<参加者> 河内一浩（羽曳野市教育委員会）、萩野谷正宏（紀伊風土記の丘）

（以下風土記の丘ボランティア）金森昌子、津田明子、川本幸男、芝貴子、鳥居千純、木村健、芝田鶴子、岡本美代子、二河田喜美子

<発表者2名＋11名 計13名>

### 【参加者のコメント・質疑応答】

#### <近畿地方のカツオ釣り針について>

- 金森 : 西庄遺跡で鹿の角が出ていますが、食べるために獲ってきたのか、道具を作るために持ってきたのか、どちらですか。
- 富加見 : 西庄遺跡では魚だけでなく、シカやイノシシなどの動物も食べていました。食べたあとの鹿の角は漁具などに利用されたと思います。
- 川本 : 鹿角製の漁具はどうやって作ったのですか。
- 富加見 : 刃物で削ったり、何かで磨いたりして作りました。縄文時代から鹿などの骨を磨いた漁具が作られています。
- 仲原 : 西庄遺跡の鹿角製品には漁具以外に刀装具や刀子の柄が多く確認できますが理由は何ですか。
- 富加見 : 刀子については漁撈関係で使われていた可能性があります。
- 津田 : 発表でカツオを煮る土器の紹介がありましたが、つくだ煮を作るものですか。
- 富加見 : つくだ煮ではなく、ダシや調味料ではないかと思います。発酵させた魚醤みたいなものか。鯉節は一回煮てから乾燥させる作業が必要です。
- 仲原 : カツオはどの時代から獲りはじめていましたか。
- 富加見 : 縄文時代から大形の釣り針があるので獲っていた可能性があります。
- 津田 : 神社の堅魚木の起源はカツオと関係がありますか？
- 富加見 : 鯉節をのせたという説があります。
- 河内 : 鯉節をのせたのが起源かもしれませんが、何故のせたのかわかりません。

#### <和歌山県出土の銅鐸形土製品について>

- 津田 : 銅鐸には本来音を鳴らす機能があったということですが、土製品にはそのような機能があったのですか。
- 仲原 : 銅鐸形土製品に舌状の土製品を伴うものがあり、鳴らす銅鐸を模倣したものがあります。しかしそれは音を鳴らすためではなく、銅鐸を模倣した結果だと思います。銅鐸形土製品は鳴らすことを目的にしていなと思います。
- 芝 : 岡村遺跡など鋸歯文を描いたものがありますが、何故それ以外のものは銅鐸を忠実に模倣したものを作らなかったのですか。
- 仲原 : 岡村遺跡例もかなり忠実ですが、銅鐸を完全にコピーしたようなものではありません。銅鐸形土製品は銅鐸の文様を模倣するというより、銅鐸の形を表現することが必要だったと思います。それらしい形であればよかったのだと思います。
- 津田 : 井戸から見つかる例もあるみたいですが、井戸に銭を入れるような

祭祀と同類でしょうか。

仲原 : 弥生時代から井戸には完形の土器を納めるような祭祀がおこなわれていました。井戸を作った段階や途中の段階、井戸を埋める段階などに祭祀がおこなわれており、銅鐸形土製品もどこかの段階で埋められた可能性があります。

河内 : 溝などで見つかる場合は、水の祭祀なのか、ただ単に廃棄したものか、区別することは難しいと思います。井戸についても井戸の中に廃棄された可能性もあります。溝や井戸などは祭祀遺物だけがあるのか、他の土器のような生活遺物の中に混ざっているのかで意味が違ってくるかもしれません。岡村遺跡の場合、銅鐸形土製品2点とともに鳥形土製品や回転形土器も一緒に出土しているのが重要だと思います。

仲原 : 鳥形土製品について、何か土器などに貼り付いていたものでしょうか。

河内 : 鳥形土製品は2つの部品が差し込み式で一体になるように展示されていますが、発掘調査時には別々に出土したもので、差してみたらいい感じにはまったので、それ以来一体として展示されています。ただ胎土・焼成が全然違うので一体であるかどうかは疑問です。全国的に複合となる鳥形土製品は珍しく、もしかしたらここだけかもしれません。種類はにわとりだと思っています。この個体は高杯などに取り付く可能性があります。愛知県などには壺の口に取り付くものもあります。